

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

【神奈川小学校 学校教育目標】

よく**か**んがえる **な**かよく **が**んばる わたしたち かなっ子
(知) (徳) (体)

【教育課程全体で育成を目指す資質・能力】

自分の考えをもち、対話を通して問題解決を図ろうとする子

(2) 中期取組目標

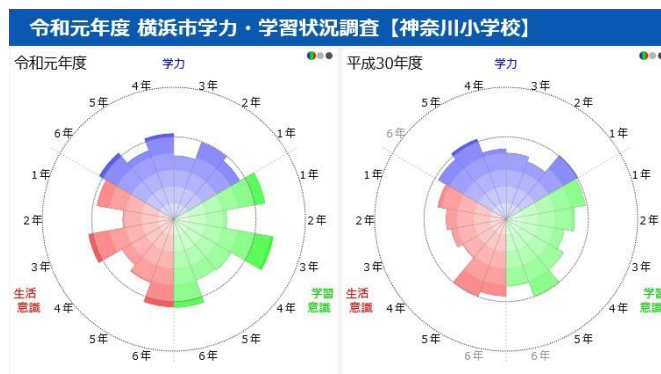
★★【か】よく考え ★★【な】なかよく 【が】がんばる ★【わ】わたしたちかなっ子

授業改善を核とし、子どもの自己決定を保障する取組を継続的に行うことで、自らすすんで問題を見つけ、よく考えて行動する子どもを育てます。様々な場面で子どものよさを価値づけることを通して目標モデルを確立し、また、授業や活動では子どもがかかわり合う場を保障し、他者と豊かにかかわり合う子どもを育てます。

(3) 学力向上に向けた重点取り組み分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	① 人との関わりや考えの交流を充実させ、主体的に学ぶ態度を育てる。
担当 推進研究	② 重点研究を核に、子ども自身が問題解決を図り進んで取り組む授業づくりをする。

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

4年生と6年生は市の平均を上回ったが、その他の学年は市の平均を下回る結果となっている。各学年の学習意識と学力は必ずしも比例していないが、6年生は比較的学習意識も高く、進学を意識した指導の成果がでている。国語を例にとってみると、どの学年も「書く」能力が下回っている学年が多いので、重点的に取り組む必要がある。

(2) 学力層を経年変化で捉えた分析

同じ児童集団の学力層を経年で捉えると、どの学年も学力層AとB（正答率の高い児童）の割合は、市の平均または平均を下回っている。社会においては、平均6年生が平均を上回った。また4年生は昨年と比べると大きく伸び、全ての教科において平均とほぼ同じとなり、とくに社会は平均を上回った。

(3) 生活意識調査の集計による分析

どの学年も学校生活の意識は市平均とほぼ同じくらいといえる。中でも、「自分にはよいところがあると思いますか。」については、「そう思う。」または「どちらかといえばそう思う。」と答えた児童が市平均より多いのは本校の児童のよさといえる。一方、「勉強は好きですか」については、「好き」または「どちらかといえば好き」と答えた児童が市平均を大きく下回っている。子ども自身が自分で解決できた、楽しいと実感できる授業を工夫する必要がある。

3 令和2年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的な取組

学校教育目標をもとにした資質・能力の定着を図るため、各学年で具体的手立てに取り組む。